

ホタテガイ養殖管理情報

稚貝の分散作業を始めましょう 新貝は20℃を下回ってから作業しましょう

1 海況

9月29日時点の陸奥湾の中層（10～20m層）の日平均水温は図1のとおりです。水温は22℃前後になっており、今後1ヶ月間の水温は平年並み～やや高めの見込みです。詳しくは、陸奥湾海況情報や海ナビ@あおもり（下記URL、QRコード②）をご覧ください。

2 稚貝の状況について

湾内7地点で、9月8～24日に採取した未分散稚貝の中段1段の成育状況を調査しました。測定結果は表1のとおりで、殻長は西湾平均で18.5mm、東湾平均で22.7mmで、それぞれの同時期の平年値（平成12年～令和7年の高水温年を除く平均値）19.9mm、19.4mmとほぼ同じ値です。へい死率は西湾平均で5.3%、東湾平均で1.0%でした。

3 稚貝分散作業時の注意点

- 現在の水温は、稚貝が成長する23℃以下になっています。
- 今夏の水温は、一部地区で一時的な上昇が見られたものの、概ね平年並み～やや高めで推移しました。高水温年では、稚貝が高水温によって疲弊するため、長期間養生させてから分散することが、分散後のへい死率低減に有効です。一方、今年は著しい高水温とはならず、稚貝の殻長も平年並みであることから、稚貝の疲弊は比較的少ないと考えられます。
- 分散が遅れると、稚貝の成長悪化や、異常貝増加によるへい死につながるので、早めに作業を開始してください。また、稚貝は乾燥や衝撃に弱いので、取り扱いには丁寧に、作業は手早く行いましょう。
- 収容枚数が多い場合や新貝と成貝向けの稚貝分散を優先し、収容枚数が少ない場合や半成貝向けの稚貝分散も含めて早めに終わらせましょう。
- 1段当たりの収容枚数が多いと成長悪化やへい死につながるので、養殖方法に応じた適正な収容枚数（1段当たり10～20枚）を心がけて作業してください。
- 潮流によるぶつかり合いで、外套膜（ヒモ）が傷ついてへい死しないように、ネットにはオモリをつけましょう。また、潮流が速い場合は、作業を控えましょう。
- 作業終了後は波浪によるぶつかり合いを防ぐために、施設を浮かせずないようにしましょう。

4 新貝の養殖管理について

新貝の籠換え・掃除は、中層の水温が20℃を下回り、貝の体力回復の目安となる「フチがまわっている」ことを確かめてから開始するようにしてください。

表1 未分散稚貝の成育状況

調査場所	幹網水深		稚貝採取		パールネット		調査前の 玉付け	生貝数 (枚)	死貝数 (枚)※	へい死率 (%)	異常貝率 (%)	サンカクジツホ [®] 付着率(%)	生貝の平均殻長 (mm)
	調査月日	(m)	月日	篩目合(分)	目合(分)	鍾							
A	9月16日	20	7月17日	1.5	1.5	鉛100匁	8月前半	145	1	0.7	0.0	0.0	17.7
B	9月24日	25	7月18日	1.5	1.5	鉛50匁	7月30日、9月2日	270	23	7.8	1.0	2.0	16.9
C	9月16日	30	7月21日	1.5	1.5	太棒1段	9月11日	126	11	8.0	0.0	0.0	16.9
久栗坂実験漁場	9月14日	30	7月21日	2.0	2.0	コンクリ2kg	なし	101	5	4.7	0.0	0.0	22.5
西湾平均										5.3			18.5
E	9月11日	38	7月1日	1.0	1.0	鉛75匁	なし	14	0	0.0	0.0	0.0	18.0
F	9月12日	25	7月20日	1.3	1.0	なし	9月10日	96	5	5.0	1.0	0.0	20.3
G	9月8日	28	7月27日	1.8	1.8	鉛75匁	なし	81	0	0.0	0.0	0.0	22.6
H	9月9日	15	7月17日	1.8	2.0	鉛100匁	なし	97	0	0.0	0.0	0.0	25.2
川内実験漁場	9月14日	30	7月17日	2.0	2.0	コンクリ2kg	なし	39	0	0.0	0.0	0.0	27.6
東湾平均										1.0			22.7

※成長後の死貝



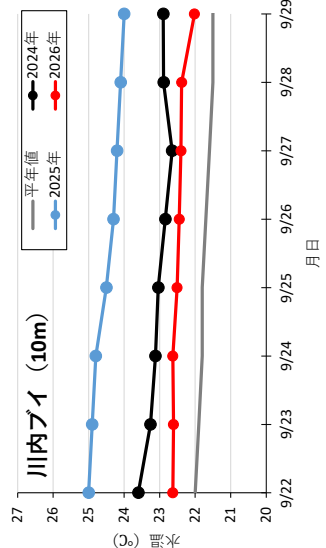
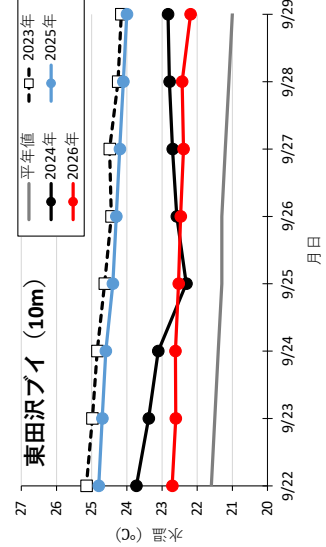
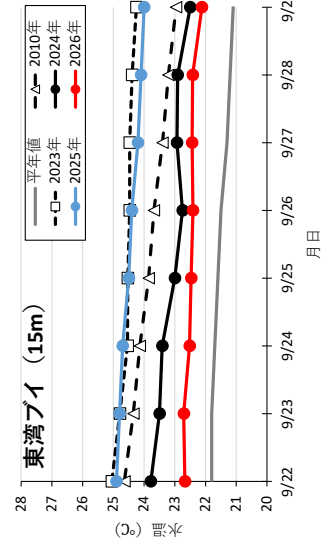
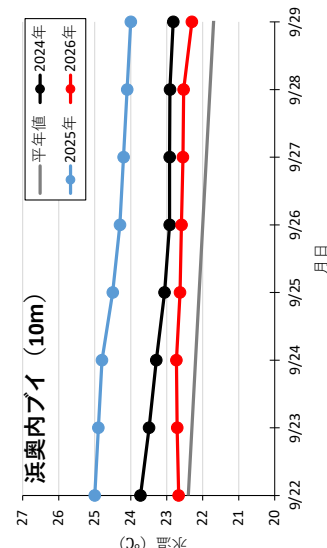
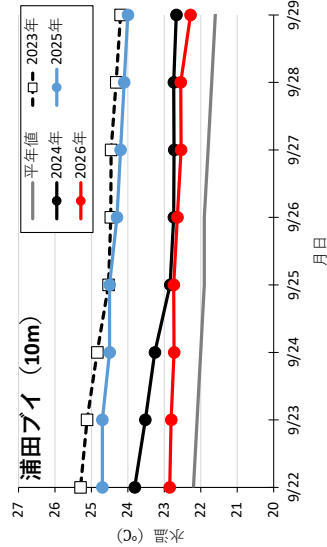
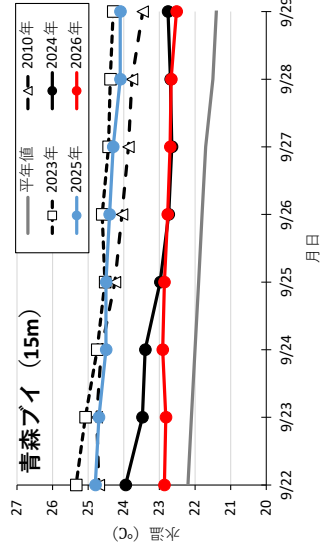
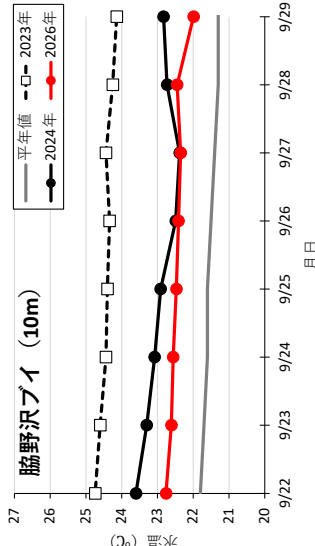
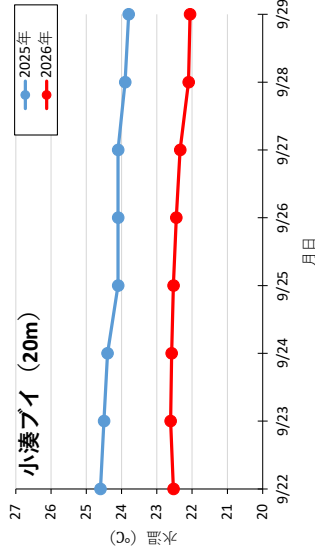
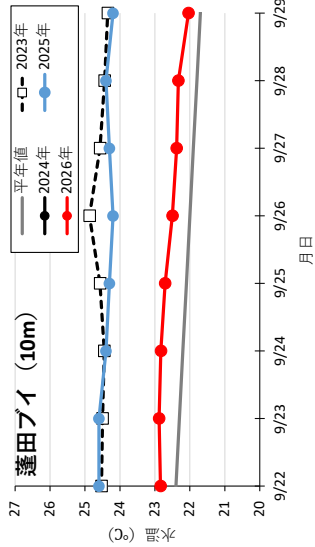
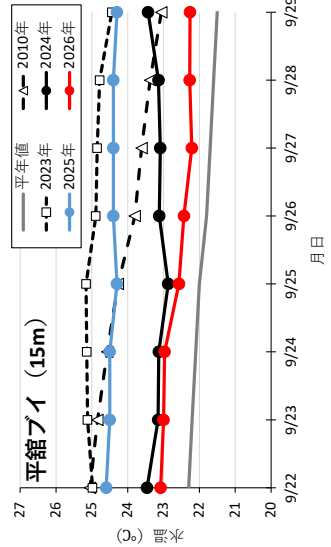


図1 海況自動観測ブイ・水温観測ブイでの中層(10~20m層)の日平均水温